

研究テーマ：インターネット依存への効果的な介入と予防を目指して

-自閉症スペクトラム傾向はインターネット依存リスクを高めるのか？-

NPO法人 発達障害研究推進機構：研究員

伊勢 由佳利

論文タイトル：(仮)自閉症スペクトラム障害特性とインターネット依存の関連

【研究の背景と目的】

近年、青年期の自閉症スペクトラム障害者が抱える問題としてインターネット依存が注目されている。自閉症スペクトラム障害(以下、ASD)は、対人相互性の障害および興味や行動の限局を主徴とする障害であり、その有病率の高さからも彼らへの対応は社会全体で考えなければならない課題である。しかし、ASD者のインターネット依存に関する研究は進んでいないのが現状である。そこで本研究では、臨床現場からの報告で明らかになってきた ASD 者のインターネット依存の問題について、ASD の診断のある大学生および ASD 傾向の高い大学生を対象に調査を行った。

【方法】

ASD 診断のある大学生 19 名、一般の大学生(精神科への通院歴なし)を対象に調査を行った。個人のもつ ASD 特性を調べるため日本語版 AQ(AQ-J)を使用した。これにより、一般の大学生を ASD 傾向の高い群(高 AQ 群)と低い群(低 AQ 群)に分類した。そして ASD 群、高 AQ 群、低 AQ 群の 3 群を対象に、インターネット依存尺度得点およびインターネット依存傾向測定尺得点を比較した。また、ASD 特性のうち、特にインターネット依存と関連のある特性があるのかを調べるため、AQ の 5 つの下位尺度(ソーシャルスキル・コミュニケーション・注意転換・細部への注意・想像)と 2 つのインターネット依存尺度得点の関連を調べた。

【結果と考察】

本研究の結果、ASD 群および高 AQ 群のインターネット依存尺度得点は低 AQ 群に比べ有意に高いことが示された。インターネット依存尺度のカットオフ得点を超えた割合は、低 AQ 群 5.7%、高 AQ 群 18.0%、ASD 群は 26.3%であつ

た。また、インターネット依存者の心理状態に着目して作成されたインターネット依存傾向測定尺度を用いて比較すると、ASD 傾向の高い学生はインターネット依存が深刻な状態に至っている可能性が示唆された。これらの結果より、ASD 特性をもつ大学生は、インターネットに依存しやすいと考えられた。また ASD 傾向とインターネット依存の関連も示され、特に、ASD 特性のうち“ソーシャルスキルの欠如”“コミュニケーションの問題”“注意転換の困難さ”とインターネット依存が関連している可能性が示唆された。

今後、ASD 者を含む全てのインターネット利用者の適切なインターネット利用促進を目指し、さらなる研究を行いたい。